

初等教育学科「和塾」^{なごみじゅく} 担当：若井広太郎先生 学生が近隣の小学生を対象に学習指導「和塾」を運営

～学生の学びの場と地域貢献～

児童学部初等教育学科では、地域貢献活動の一環として2013年度から、近隣の小学生を対象に学習指導を行う「和塾」を運営しています。和塾はいわゆる学習塾とは少し異なり、児童一人ひとりの学習の取り組みに応じて、学生が指導・支援をします。学生は、各回の学習支援のほか、工作やゲームなど季節のお楽しみ会を企画・運営します。コロナ禍の影響で2020年度より中止していましたが昨年3年ぶりに再開しました。



今年度は16名の学生ボランティアが参加し、毎週水曜日に小学校4年生・5年生の児童10名に対して、国語や算数を中心に学習指導を行っています。学生は和塾での実践を通じて、児童への対応や言葉かけなど、どの児童にもわかりやすく丁寧な指導法を学びます。また同塾での経験は、小学校の教員を目指す学生にとって教員像の形成にも繋がります。今後も初等教育学科では、未来を拓く小学校教育のプロフェッショナルを育てていきます。



教育福祉学科 宮地孝宜ゼミ「こども食堂」

学生が地域の小・中学生とその保護者を対象に「こども食堂」を開催中

～交流の場を通じてコミュニケーションの輪を広げる～

人文学部教育福祉学科宮地孝宜ゼミの学生を中心とした本学の学生ボランティアは、毎月第4木曜日15:30～19:30に板橋区金沢自治会とともに、金沢自治会地域在住の小学生・中学生とその保護者を対象に「金沢自治会 こども食堂ひだまりキッチン」を開催しています。これまでに牛丼・チキンカレー・三色丼など食事の提供や、参加した子どもの学習支援やトランプなどを用いた遊びも行っており、お腹も心も満たされる「こども食堂」を展開しています。

「こども食堂」という地域の交流の場を通じて、コミュニケーションの輪を広げていき、地域の更なる交流と活性化を図っていきます。



日時：毎月第4木曜日 15:30～19:30

場所：板橋区板橋3丁目44-5 金沢自治会館

対象：金沢自治会地域在住の小学生・中学生とその保護者

定員：30名 ※先着順

申込：LINE公式アカウントにて申込み方法をお知らせします。友だち追加をお願いします。

参加費：子ども 100円、大人 300円



LINE (子ども食堂)



Instagram (宮地ゼミ)

北区との協働事業「魅力発信プロジェクト」 東京家政大学の学生と北区若手職員の協働活動

～若い世代の感性を活かし、北区の魅力を発信～

本学は平成23(2011)年に東京都北区と包括連携協定を締結し、学生が北区の若手職員と協働して区の魅力を発信する活動を行っています。

今年度は6月より学生・職員の目線や発想力を活かした「魅力発信プロジェクト」を行っており、7月に行われた第4回目の活動では、区内の街歩きを実施しました。3グループに分かれ、担当地域を歩きながら魅力的なスポットを取材しました。今後も12月まで会議や取材を重ね、完成したPR動画は、北区コミュニティバス及び北区公式 SNSなどで放映する予定です。



自然ふれあい情報館で
 自然環境を学ぶ様子



グループの様子 (清水坂公園)

板橋区との協働事業「いたばし未来子ども大学」

環境共生学科 片田真一先生 栄養学科 鍋谷浩志先生

～子どもたちの学習意欲の向上や将来の夢を育むきっかけを提供～

3日間を通して東京家政大学・大東文化大学の学生が子どもたちの活動をサポート

板橋区教育委員会との協働事業「いたばし未来子ども大学」(主催：板橋区教育委員会事務局 協力：東京家政大学、大東文化大学)を7月27日・31日・8月3日の3日間実施し、参加した小学4～6年生30名の子どもたちが夏休みに新たな学びに触れる機会を提供しました。

いたばし未来子ども大学は、大学が持つ教育力や幅広い分野での研究などを基盤とした取り組みで、7月31日に本学で開講された講義①「ヒトは生き物に名前をつける。『生き物の“名前”採集プロジェクト』(環境共生学科 片田真一先生)では、自然豊かなキャンパスの中でさまざまな生き物を探し、実際に見て触れて観察することで、生き物を身近に感じる体験をしました。また図鑑や標本で捕まえた生き物の名前を調べ、子どもたちはより理解を深めることができました。

講義②「食べることで環境問題 一分けすることの役わりー」

(栄養学科 鍋谷浩志先生)では、食品加工学実習室で実際に豆腐作りを見学しながら、日本の大事な食文化「大豆」について学びました。また、ジュースが凍るときにできる氷の結晶は純粋な水分子から成っていて、凍っていない部分は濃くなるという凍結濃縮法の原理の説明を受けるとともに、チューブ型アイスを食べながら、はじめと終わりでチューブから出てくるジュースの濃さが違うことを舌で確認し、凍結を利用した水の分離の現象を体験しました。講義の最後には将来の自分へのプレゼントとして思い思いのものを缶に入れ、専用の機械を用いて缶詰作り体験も行いました。

いたばし未来子ども大学を通して子どもたちは、楽しく学びながら環境問題について身近に感じる体験を得ました。本学では今後も地域との連携を図り、さまざまな取り組みを推進していきます。

